

大学入試センター試験業務の業務・システム最適化計画概要

○ 大学入試センター試験業務の業務・システム概要

独立行政法人大学入試センター（以下「センター」という。）は、大学入学者選抜に関する大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）業務のうち、センターで一括して実施することが適当な業務について、大型汎用コンピュータによる高速大量一括処理システムとして、大学入試センター試験情報システム（以下「センター試験システム」という。）を開発し運用している。

この最適化計画は、本センター試験システムを対象とする。

○ 業務・システム最適化の経緯

センターは、第2期中期目標・中期計画（平成18年度～平成22年度）において、平成19年度末までにセンター試験システムについて業務・システム最適化計画を策定することとした。

また、中期目標期間中の計画実現に向け、平成17年度末に業務・システム最適化につながる「新業務システム開発基本計画」を策定し、計画遂行に必要な基盤整備を行った上で、最適化計画の一部を先行して実施した。

○ 最適化の実施内容

1. システムの構成においてバックアップ系、検証系を設け、完全性及び可用性を確保するとともに、取り扱う情報の機密性を高めるためのセキュリティ対策を講じる。
2. 現行の機密水準を保持しつつ業務を見直し、外部委託の推進を図るとともに、市場化テストの活用についての検討を行う。
3. センター試験システムを基本構造から見直し、システムの運用及び維持管理における経済性、効率性、柔軟性、保守性を改善する。
4. 可能な限りにおいてオープンソースソフトウェアの活用を図り、総所有コストを削減することで効率的なシステムを構成する。
5. レガシーシステムの刷新及び高度情報通信技術の活用により利用大学との連携業務の高度化、効率化を図る。
6. EUC（End User Computing）を導入し、非定型業務への柔軟な対応を図るとともに、システム開発コスト及び総所有コストの縮減を図る。

○ 最適化による効果

最適化計画の一部先行実施により、業務の省力化とともに平成18年度には144,361千円の運用経費の削減を行った。

平成23年度の最適化計画終了時には、平成18年度に比べて年間で約8,000万円（試算値）削減される見込みである。